



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

金菱清・社会学部教授ゼミによるシンポジウム 『阪神・淡路大震災「三十年限界説」を問い直す』を開催 -30 年限界説をテーマに、震災の記憶を継承し語り合う-

報 道 各 位

関西学院広報部

関西学院大学（兵庫県西宮市、学長：森康俊）社会学部の金菱清教授ゼミは 2026 年 10 月 25 日（日）に、シンポジウム『阪神・淡路大震災「三十年限界説」を問い直す』を開催いたします。

金菱教授は災害・環境社会学を専門としており、災害を死者との関係性のあり方に変換するなど、斬新な発想で災害や環境の研究を行っています。また、金菱ゼミでは死や災害、地域の環境などの非日常とともに生きていくための思考法をフィールドワークにもとづいて学び、研究しています。金菱ゼミの「震災の記録プロジェクト」は、阪神・淡路大震災から 31 年が経過し、震災を知らない世代が多数となるなか、神戸の地で進む新しい継承の試みの最前線取材しており、このたび、書籍『阪神・淡路大震災「三十年限界説」を問い直す（ナカニシヤ出版、2026 年 10 月末出版）』が刊行されることとなりました。本シンポジウムはこれを記念して開催し、学生によるフィールドワーク報告や、金菱教授、山地久美子・神戸大学特命准教授、学生によるオープンディスカッションを行います。

シンポジウム概要

日 時：2026 年 10 月 25 日（日） 13 時 30 分～17 時 00 分（開場：13 時 00 分）

場 所：神戸市立こうべまちづくり会館 2F ホール

（兵庫県神戸市中央区元町通 4-2-14）

内 容：

【第一部】 学生フィールドワーク報告（13 時 45 分～14 時 45 分）

- ① 落語班：震災落語の継承と笑いを通じた記憶の再起動
- ② 在日班：在日コリアンの生活史と多文化における被災体験
- ③ 神戸新聞班：地方紙の記録再読解とメディア伝承の可能性
- ④ 教育班：学校現場における防災模擬授業

【第二部】 オープンディスカッション 「同化翻訳」で拓く新たな継承（15 時 00 分～16 時 45 分）

登壇者：金菱 清 関西学院大学社会学部 教授

山地 久美子 神戸大学地域連携推進本部 特命准教授

金菱ゼミ生

概 要：非体験者の若者が自らの視点で災害体験を自らの物語として引き受ける「同化翻訳」の可能性を語り合い、30 年の節目を超えて記憶を更新し続けるための意見交換を行います。

その他：どなたでもご参加いただけます。（参加無料、事前申込制）

ご取材いただける場合は、10 月 23 日（金）15 時までに、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

本件に関するお問い合わせ先：学校法人関西学院 広報部企画広報課（担当：中谷、和田）
兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 〒662-8501 TEL. 0798-54-6873 Fax. 050-3535-4985